

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570807859		
法人名	有限会社 ふあいん		
事業所名	グループホーム ひかり		
所在地	秋田県大仙市藤木字東八圭21-1		
自己評価作成日	平成27年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成28年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりを大切に、地域行事や活動に積極的に参加し、顔の見える関係づくりや交流により、地域のニーズに応えたいと考えています。地域と共助しながら、利用者と職員が、また利用者同士が家族のような馴染みの関係を築き、一人ひとりの体調やペースに合わせて、楽しく、和やかに暮らし続けられるよう努めております。また、気づきのケアを重視し、保持する能力を活かす工夫を常に考え支援しています。ニーズは個々に違い変化していきます。その都度、本人、ご家族の意思を確認し、話し合いを重ね、共に支える関係性を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム自体が町内の一員として認知されており、雪寄せや畑作業で協力していただいている他、地域の高齢者にも気を配り、事業所の機能を活かしながら相互に協力し合える良い関係づくりが行われています。管理者は随時職員に声をかけて関係づくりに力を入れ、運営に反映できるように努めています。また、チェック表を活用して排泄用品の使用を工夫し、家族の負担軽減にも配慮されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホールなどの共有スペースに提示し、職員全員が日々理念の内容を念頭に置くと共に、理念に基づいたサービスを実践している。	年頭及び毎月のカンファレンスで理念について確認し、利用者一人ひとりの気持を尊重し、居心地良く過ごせる環境づくりに配慮されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校の文化祭や町内のお祭り等、昔からの風習なども含め、地域の方々や利用者から助言をいただき、交流を図っている。町内会員として、会費徴収など協力している。	公園の掃除や町内会費の集金に利用者と一緒に出かけ、町内行事には積極的に参加しています。畑を耕していただいたり雪寄せに協力していただき、収穫した野菜を交換したりと地域の一員としての交流が日常的に行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	近所の高齢者の見守りや声掛けを積極的に行い、依頼があった際は、地域の老人会等で認知症ケアについての啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容や研修、利用状況などの報告を行い、地域での取り組みの一環としている。また毎回テーマを決め話し合い、委員や利用者からの意見や質問を参考にサービスの向上に努めている。	ホームの状況報告に対して参加者から活発に意見が出されています。勉強会を行うこともあって一緒に学び、地域の方にとっても有効な機会となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度的に不明な点など、わからない事や詳しく聞きたいことがあった際は尋ねられるような関係作りに努めている。	書類提出のために毎月窓口を訪れている他、制度の不明点や困難事例の相談等で連携を図り、協力関係が築けるよう取り組まれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体的、心理的による拘束について、社内研修を通じて理解に努め、スタッフは各自、身体拘束はその人の尊厳を傷つける行為と認識を持って、拘束のない自由な生活が出来るよう取り組んでいる。	職員は拘束の内容を理解してケアにあたっています。サービス提供中に気づいたことがあれば声をかけ合い、拘束のないケアを意識しながら取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やスタッフミーティングを通じて、全職員への理解を図っている。日頃から利用者の状態観察を心がけ、心理的、言葉の虐待にも注意するよう話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修やミーティングを通じて、高齢者の権利擁護、成年後見制度について学び、知識向上に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は事業内容、重要事項の説明の他、ケアに関する考え方や実際の取り組み等を出来る限り丁寧に分かり易く説明し、十分に理解納得したうえで記名をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等での意見、議事内容を回覧し、全スタッフへ確認と理解を図っている。また玄関に意見箱を設置したり、手紙や電話にて家族からの意見、要望を確認している。意見要望に対してはミーティングで話し合い反映させている。	面会の少ない家族からは電話で意見を聞くようにしており、アンケートの実施等で意見の吸い上げに努めています。本音を話してくれる家族もあり、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや必要に応じて個人面談を行い、スタッフからの意見、提案を出してもらい運営に反映させている。また、日頃からスタッフとのコミュニケーションを通じて意見を聞き、職員誰もが言いやすい環境に努めている。	管理者は会議や申し送り時、或いは随時職員に声をかけて意見を聞く努力をされ、代表に伝えて反映できるように取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を通じ、本人からの仕事への取り組み、思い等を聞くなどし、職員にとってやりがいのある職場の設定が出来るよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修を受ける機会を確保し、職員一人一人の知識向上を図っている。また、介護技術は勿論、ケース記録の書き方、報告書の書き方にもアドバイスし向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業者連絡会や地域ケア従事者連絡協議会へ参加して、ネットワーク作りや相互訪問時に機会をもち情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、本人の安心できる場所での面接を行い、本人の不安や困っていることに耳を傾けている。その上で、見学などを通じて安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望に沿えるよう、出来る限りの支援の提供により、家族との信頼関係構築に努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、利用者と職員は生活を共にし、自然体で支え合う関係を大事にしている。また、家庭的な雰囲気と一緒に楽しく、ゆっくりとを基に、和やかな暮らしができるよう心掛けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所時や電話の際には日々の生活状況や健康状態を伝える等、お互いに情報共有しながら一緒に支えていけるように配慮している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの人間関係や、社会性への維持継続の為に、子、兄弟、親戚、知人等、できるだけ馴染みの人や場所に関わる事ができるように努めている。	行きつけの美容院の利用やかかりつけ医での受診、家族との電話や手紙のやり取り、帰宅等、本人の希望や大切にしてきたことを尊重し、関係が途切れないように支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、職員間で情報の共有に努めている。また、レクや作業時に仲介に入り、利用者同士が支え合う雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了された後も家族と連絡をとったり、立ち寄って頂いたり、相談事にも応じられるように、継続的に培った関係を大切にすることを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人の発する言葉や表情、行動をキャッチし、望まれているものを把握できるようにしている。思いを汲み取ることが困難な場合は、家族と情報交換を行い、どんな暮らしを希望しているか把握できるよう努めている。	積極的にコミュニケーションを図り、意向の把握に努めています。困難な場合は注意深く観察し、気づいたことは話し合っ対応できるように努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中やご家族からの情報から、生活歴や生きがい等の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通して、心身の状態や有する能力等の把握に努め、ケアに反映させている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との日頃の関わりの中、思いや意見を汲み取り、サービス担当者会議やカンファレンスを通して、職員で様々な視点からの意見やアイデアを出し合い、介護計画に活かしている。	日々の記録がアセスメントに活かされ、職員が意見を出し合っ本人の意向に沿った介護計画が作成されています。状況の変化に伴って家族とも話し合い、見直しされています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や特記事項を業務日誌や個別のケア記録に記入、申し送りを行い、職員間で情報を共有できるよう努めている。その中で今後の課題も話し合い介護計画の見直しに反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や運営推進会議を通じて情報交換を行い、地域資源の把握に努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪診、訪看と年2回の歯科健診を行い、体調不良の際はかかりつけ医の指示を仰いで、適切な支援をしている。	利用者の気持ちを大切に、希望する医療機関で受診できるように対応されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月の定期訪問の際には、事前に情報を提供した上で、訪問時に相談や助言を受けている。薬剤師による定期訪問もあり、薬剤師からの助言も受けている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に面会を行い、事業所内で対応可能な段階で早期に退院できるように、家族、主治医と話し合いながら連携を図っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ターミナル方針について家族に説明を行い、医療機関、訪問看護、家族間の調整支援を行い、本人、家族の希望に沿う取り組みをしている。	ホームの指針に則り、家族の意向を確認しながらこれまでも看取りを経験されています。職員が安心して取り組めるように、メンタル面のケアにも配慮されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的な救命救急の講習を受講している。急変時に適切な対応がとれるように心臓マッサージ、人工呼吸、AEDの使用法を習得して事故発生に備えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は災害時のマニュアルを理解していると共に、年2回の避難訓練を実施うち1回は消防署立会いの下指導を受けている。また、災害時には地域の方や運営推進委員の協力をお願いし、避難訓練への参加も呼び掛けている。	訓練には近隣からの参加もあり、運営推進会議で報告して意見を出していただき、災害時に備えた取り組みをされています。	避難通路の確保、非常口の段差解消及びスロープ設置の検討等、利用者の状態を踏まえて具体的な場面を想定し、安全に避難できる工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには注意を払いながら、職員は一人ひとりの尊厳を守り、状況に応じたプライバシーの確保に努めている。	ミーティングや接遇研修を通じて言葉遣い、プライバシーに配慮し、職員同士で注意しながら対応されています。	居室入口を開けたまま使用されている利用者に対し、利用者の使いやすさを考慮しながらプライバシーに配慮した工夫を期待します。
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密にし、意思表示が十分でない場合にも、表情や態度から希望を理解するよう努め、一人ひとりの状況に配慮しながら対応している。また、何事にも選択肢をもって自己決定を尊重する支援に努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の基本である1日の流れを目安に、それに固執することなく、一人ひとりの心身の状態を優先し、その人のペースに合わせながら常に利用者視点で支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの生活習慣や好みを知り、身繕いなど本人の意向が十分反映できるように、本人と話をしながら自己決定している。また、清潔を心掛け、季節や場に応じた衣類等のアドバイスをしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付け、片付け等を個々の力を見極めながら、食事が楽しめるよう支援している。また、季節の行事食等にも利用者の希望を取り入れ、手作りお菓子を一緒に作ったりと楽しい食事になるよう提供している。	献立を一緒に考え、食材の買い物に同行する等、利用者個々の能力に応じた作業を職員と一緒にいき、共に食卓を囲んで食事を楽しんでいます。食事形態を考慮しながら外食も取り入れています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量のチェック表に基づき、一人ひとりのケア記録に記録している。一人ひとりの嗜好や習慣へも配慮しながら、状態の記録と併せて観察し、把握確認している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛け誘導を行い、見守りや介助の支援も、各々の能力を見極め行っている。年2回の歯科健診にて、口腔内のトラブル予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートにて、一人ひとりの排泄パターンをチェックし、時間帯、習慣、排泄間隔を把握して、さりげないトイレへの声掛け、誘導、介助を行っている。また、下肢筋力の低下を予防し、残存機能に応じた介助を行っている。	チェック表を活用し、個々の状況に応じてトイレでの排泄を支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ストレッチ体操による便秘予防と、繊維質の多い食品や乳製品を積極的に摂れる献立による予防に努め、一人ひとりの習慣や原因等にも考慮して、自然排便が可能になるように取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時の健康状態や本人の希望を確認したうえで、出来る限り希望に沿えるよう日や順番の調整を行っている。また、拒否しがちな方の時間帯や職員の使い分け、好みの温度への配慮等、楽しく入浴ができるような工夫を行っている。	その時の状況や体調、利用者の希望に応えられるよう臨機応変に対応し、一人ひとりに合った支援をされています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や採光の調整等で、安心して眠れる環境作りに努めている。また、夜間安眠できない方には、温かい飲み物の提供や会話、スキンシップを図り不安感を取り除く工夫もしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更時は、薬剤師に内容についての説明を頂いたり、訪問看護師に相談する等して理解に努めている。薬の効用等、個々の症状変化の観察に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昼食準備や後片付けを行うことにより、役割意識を持って頂いている。また、好きな食べ物を召し上がって頂いたり、レクやドライブ等を通じて、張り合いや喜びを持てる生活を支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人の希望に沿った外出の支援になるよう努めている。季節、天気、その日の体調や希望に応じて、心身の活性化が図れるように、買い物、行事参加、ドライブ等の外出支援を行っている。	機能の低下によって外出できることが少なくなってきたものの、春はお弁当を持って花見に、冬はかまくら見物に、周辺の散歩や畑作業とできる限り戸外に出られる機会をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所有し、買い物の支払い等を行っている方もいる。管理能力がない方は、預り金の中から必要分を渡し、買い物をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の自主性を尊重し、安心感を得ていただくために、要望があれば事前に家族の承諾をとったうえで、家族や知人へ電話をかけたり、外部との関係が切れないうえ支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光、室温、湿度の調整に気を付け、誰もが居心地良く過ごせるような工夫をしている。また、季節に合ったものを飾り付け季節感を出し、利用者と一緒に作ったものも飾り家庭的な雰囲気感を心掛け、一人ひとりが心地よく感じていただけるような空間作りの工夫と配慮を行っている。	湿度計を確認しながら乾燥対策をし、ホームで過ごす衣類にも配慮して過ごしやすさを調整されています。玄関ホールには雛飾りと共に利用者が活けた花が飾られており、その時季に合わせた飾り付けをして家庭的な雰囲気づくりに工夫がみられます。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合った利用者が一緒に過ごせる居場所の確保や、一人になりたい方の空間を大切にするなど、なるべくその人の居心地の良い場所になるよう配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人ひとりの個性を尊重した馴染みの物、その方にとっての必需品等を持ち込んで、その人らしい居室で安心し落ち着いて過ごせるよう工夫している。	位牌やテレビ、ラジオ、ソファ、好きな縫い物に必要なもの等を持ち込み、自宅に居た時と同じように過ごせるよう、生活環境に配慮されています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る力を把握し、補助器具の使用や、トイレ等に表札を貼り混乱や障害がないよう工夫し、安全に配慮しながら自立支援を行っている。		